

2018年度第3四半期

 ipet 決算補足説明資料

アイペット損害保険株式会社（証券コード：7323）

2019年1月29日



## 決算ハイライト

当社は、日本の会計基準（J-GAAP）の他に、経営管理用の社内指標（Non-GAAP）にて経営成績の開示を行い、こちらをより重要な指標と考えております。詳細は APPENDIX をご参照下さい。



## 収益指標

経常収益 ..... 10,920 百万円 (前年同期比 **+21.4%**)

調整後経常利益 (Non-GAAP) ..... 728 百万円 (前年同期比 **+12.9%**)

調整後四半期純利益 (Non-GAAP) ..... 512 百万円 (前年同期比 **+199.3%**)

▶ 四半期純利益 (Non-GAAP) は 752 百万円 (前年同期 ▲115 百万円) (P9 参照)

▶ 四半期純利益 (J-GAAP) は 803 百万円 (前年同期 ▲104 百万円) (P12 参照)

保有契約件数 ..... 406,004 件 (前年度末比 **+50,491件**)

▶ 保有契約件数の純増件数は、1Q、2Q に続いて、3Q でもペット保険会社で1位。  
結果、第3四半期累計でもペット保険会社で第1位を確保\*。

▶ 当社創業以来、最高の新規契約件数・保有契約純増件数となった (FY18 3Q 累計)。

\*当社推計

## コンバインド・レシオ (FY18 3Q 累計)

正味保険料ベース ..... 88.7% (損害率 41.8%、事業費率 46.9%)

既経過保険料ベース ..... 93.5% (損害率 44.4%、事業費率 49.1%)

ソルベンシー・マージン比率 ..... 387.8% (前年度末比 +103.0pt)

▶ IPOに伴う増資や税効果会計の区分変更の影響で、大幅な改善

(単位：百万円)

	FY17 3Q	FY18 3Q	前年同期比
経常収益	8,995	10,920	+21.4%
経常利益	358	381	+6.4%
四半期純利益	▲115	752	—
調整後経常利益*	645	728	+12.9%
調整後四半期純利益**	171	512	+199.3%

\* 調整後経常利益＝経常利益 ± 異常危険準備金影響額

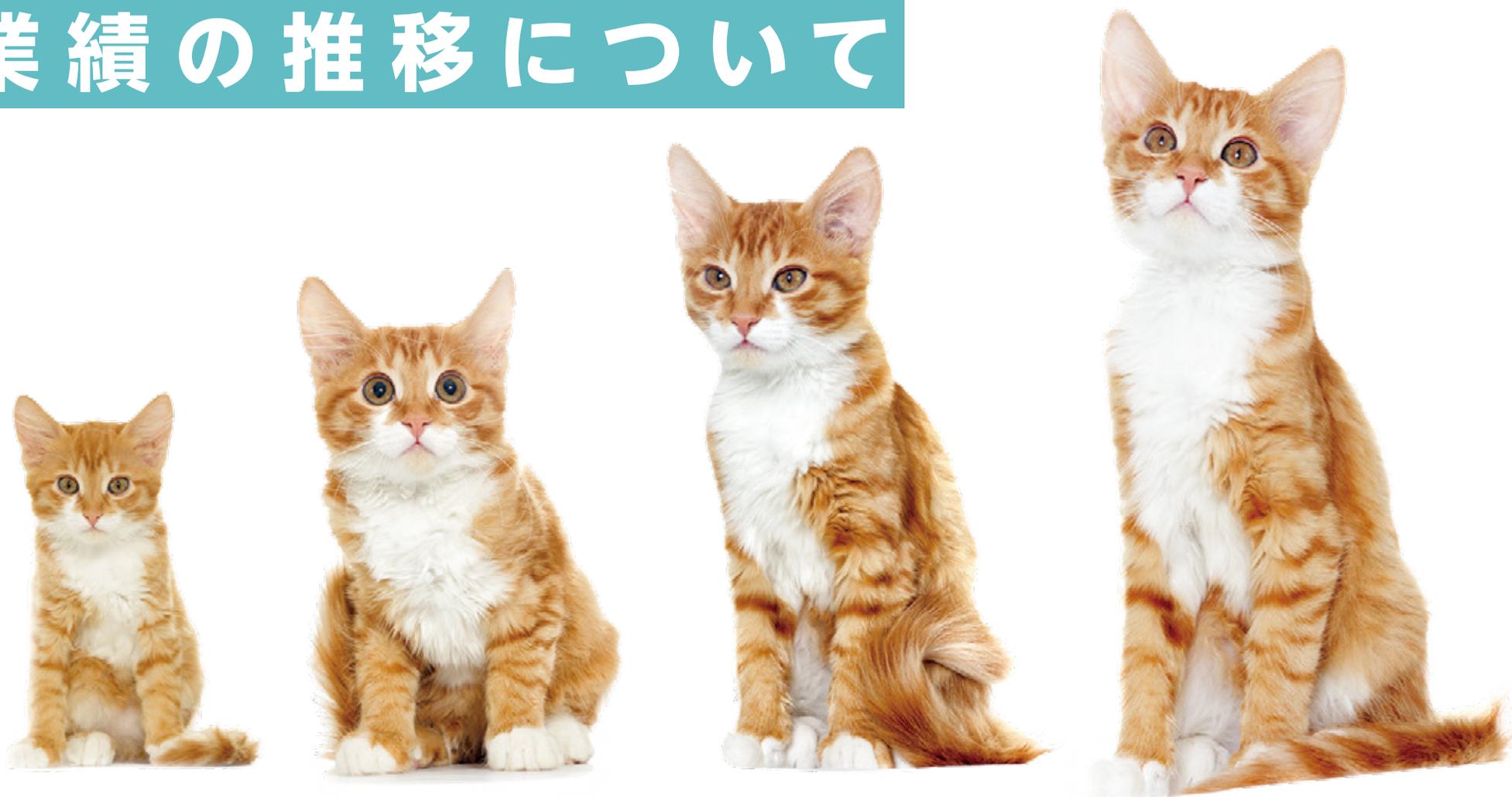
\*\* 調整後四半期純利益＝四半期純利益 ± 異常危険準備金影響額

## (参考)FY18 3Q の四半期純利益について

当年度より税効果会計の区分変更があった影響で、従来スケジューリング不能であった異常危険準備金が全額スケジューリング可能になった。その結果、前期末の異常危険準備金残高に対して489百万円、当四半期繰入額に対して97百万円、合計586百万円の繰延税金資産を計上した。その分、前年同期に比べて大幅に四半期純利益が増加している。

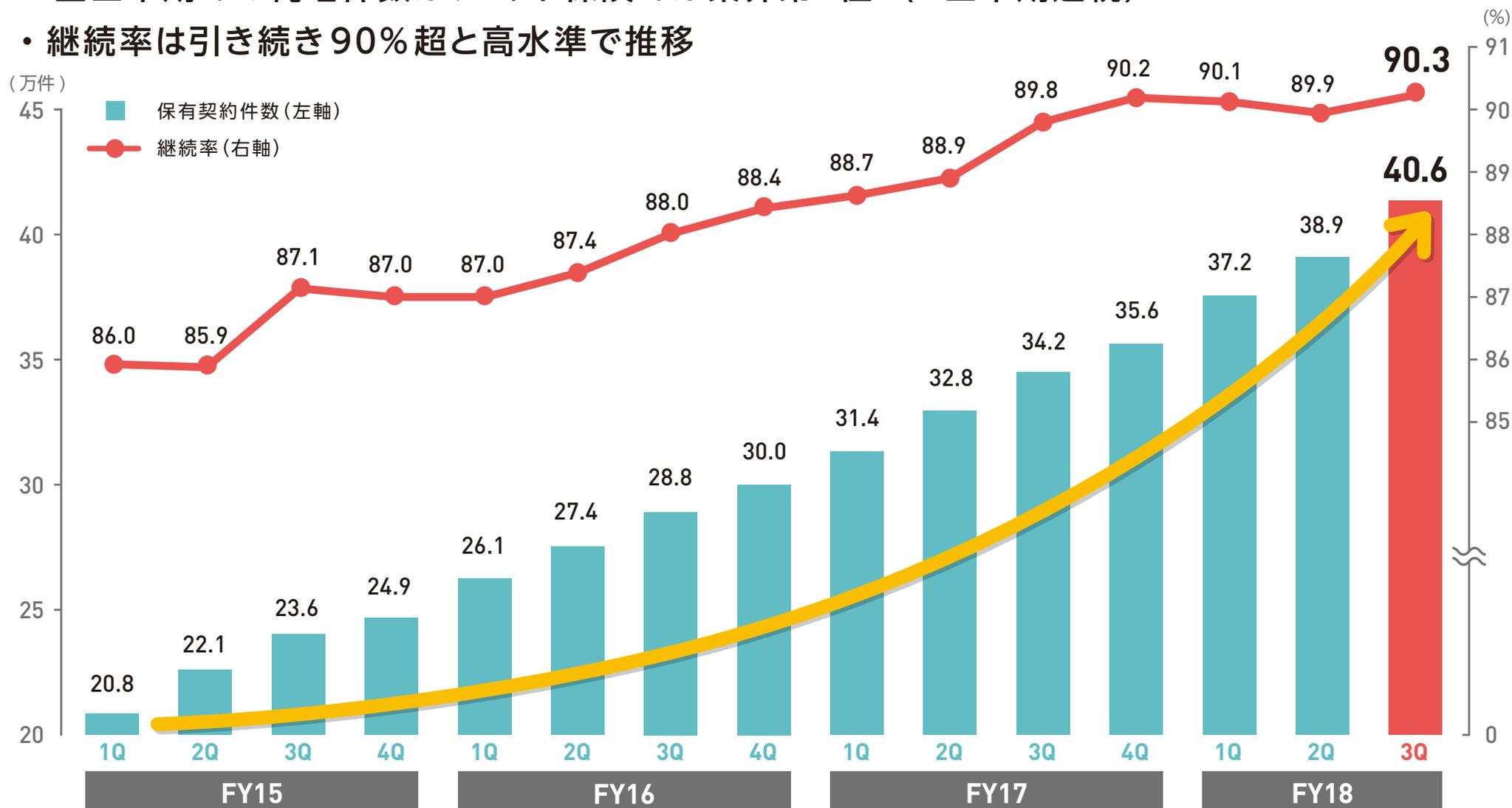
上記の影響を除くと、四半期純利益は165百万円(対前年同期 +280百万円)である。

# 業績の推移について



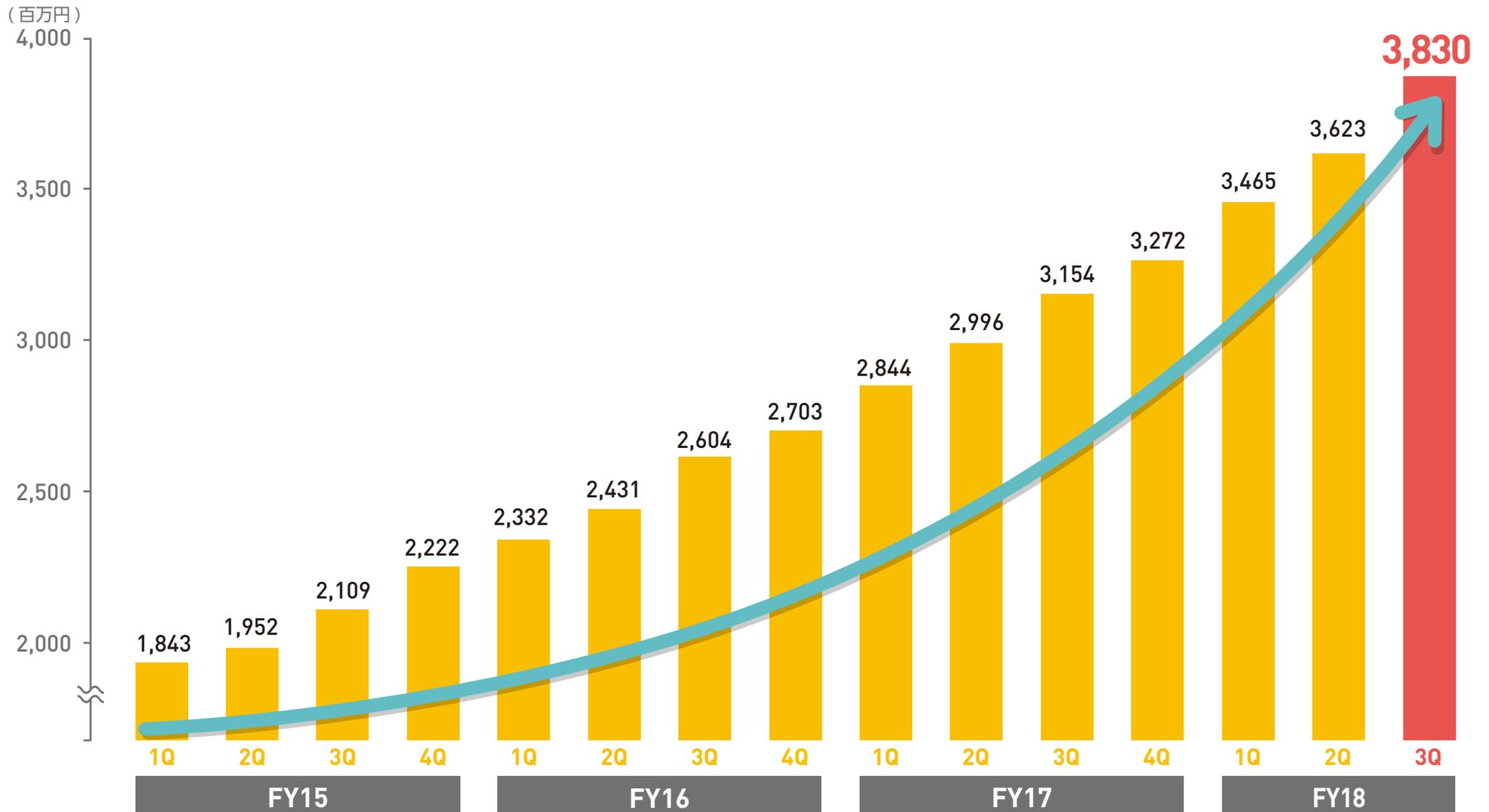
- 保有契約件数は順調な拡大を続け2018年11月末日で40万件を突破  
当四半期での純増件数は、ペット保険では業界第1位\* (三四半期連続)

- 継続率は引き続き90%超と高水準で推移



\* 当社推計

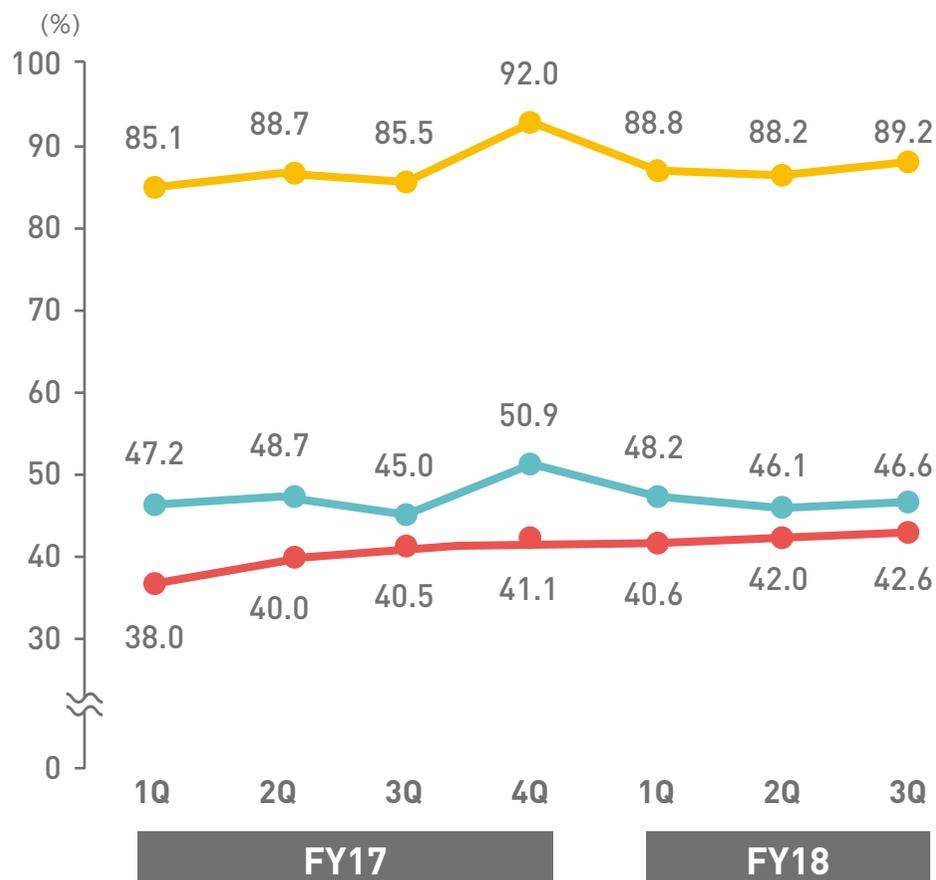
- ・ 経常収益は保有契約件数の増加と共に、順調に増加



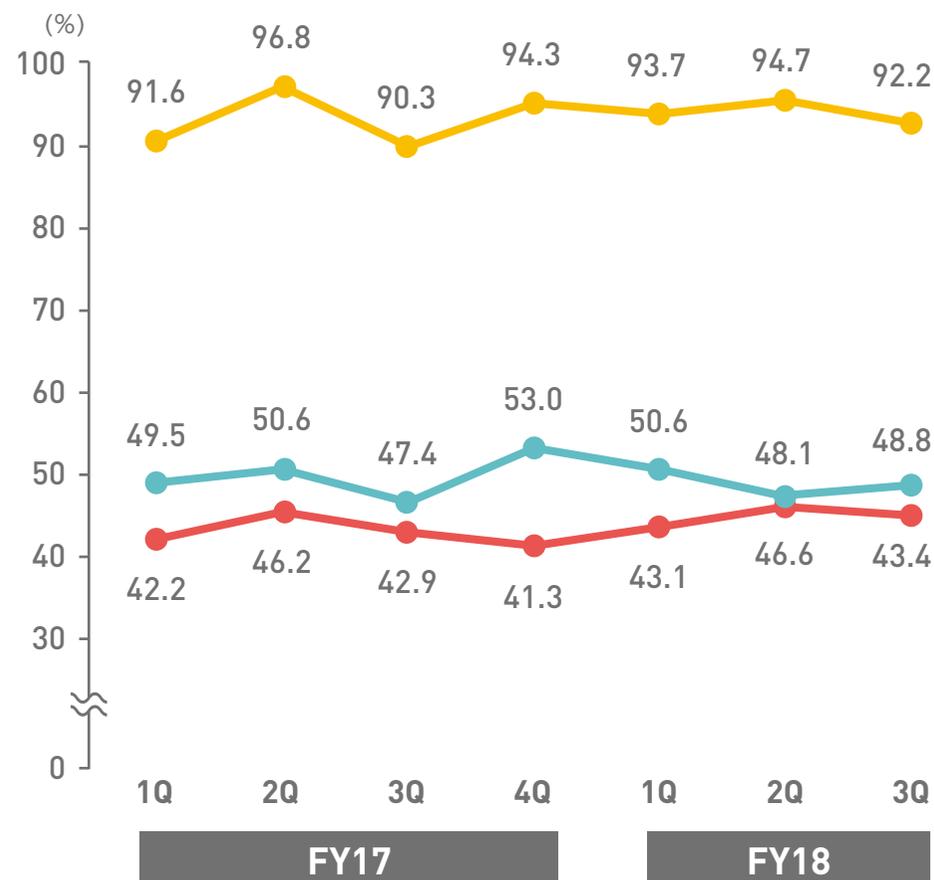
- ・ 季節変動はあるが、損害率、事業費率ともに概ね安定的に推移

● コンバインド・レシオ   
 ● 事業費率   
 ● 損害率

## 正味保険料ベース



## 既経過保険料ベース





Non-GAAPベースの

業績



(単位: 百万円)

	FY17 3Q	FY18 3Q	前年同期比
<b>経常収益</b>	<b>8,995</b>	<b>10,920</b>	<b>+21.4%</b>
保険引受収益	8,953	10,842	+21.1%
資産運用収益	38	40	+5.1%
その他経常収益	3	37	+1,010.4%
<b>経常費用</b>	<b>8,637</b>	<b>10,539</b>	<b>+22.0%</b>
保険引受費用	5,270	6,608	+25.4%
資産運用費用	—	17	—
営業費及び一般管理費	3,359	3,911	+16.4%
その他経常費用	7	2	▲65.4%
<b>経常利益</b>	<b>358</b>	<b>381</b>	<b>+6.4%</b>
<b>特別損失</b>	<b>257</b>	<b>2</b>	<b>▲98.9%</b>
<b>税引前四半期純利益</b>	<b>100</b>	<b>378</b>	<b>+275.6%</b>
<b>法人税等</b>	<b>216</b>	<b>▲373</b>	<b>—</b>
<b>四半期純利益</b>	<b>▲115</b>	<b>752</b>	<b>—</b>

## 主な勘定項目の増減理由

保有契約件数の拡大に伴い順調に増加

有価証券売却益 — ▲20百万円  
利息配当金収入 — +21百万円

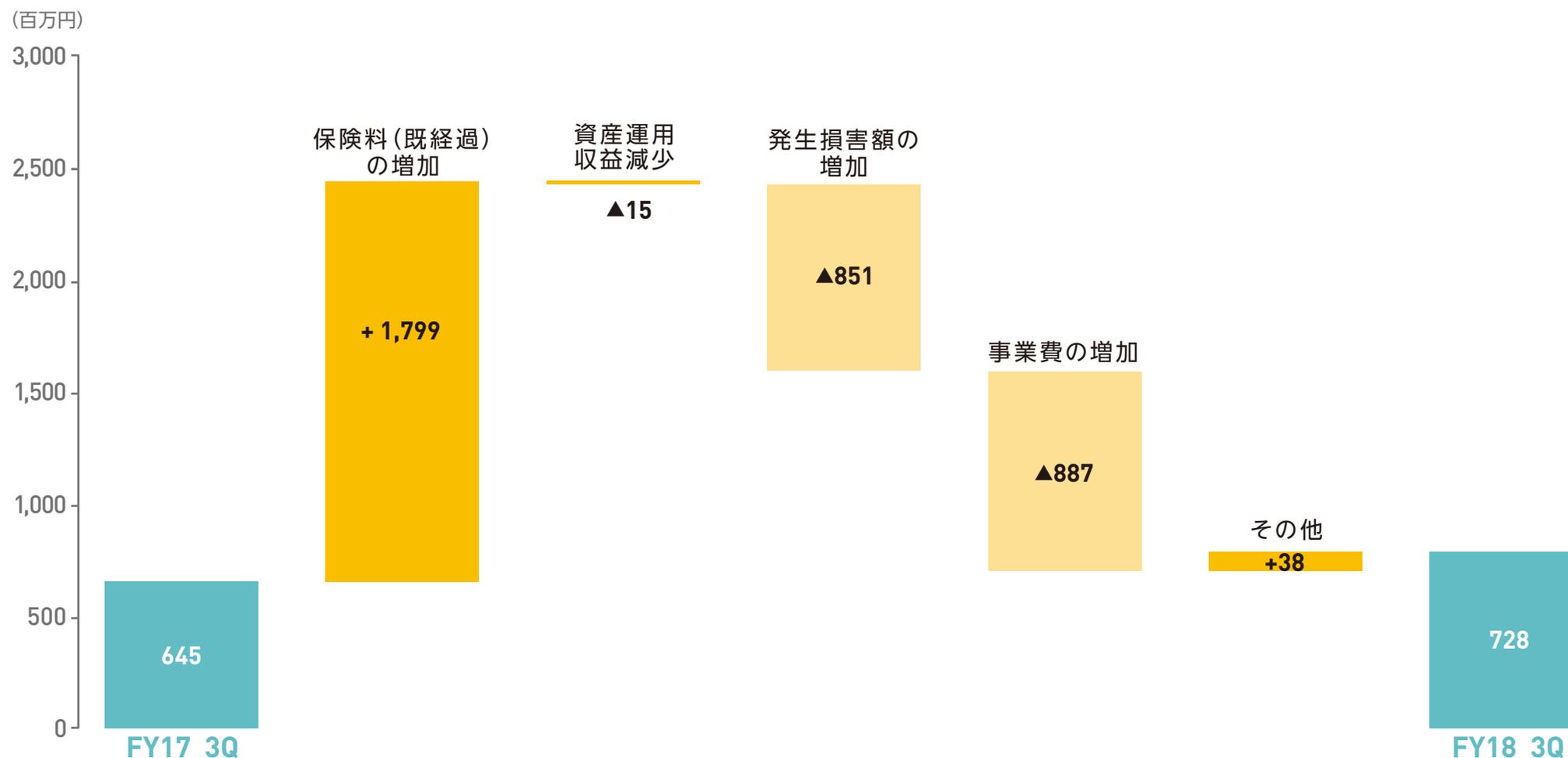
正味支払保険金 — +913百万円  
(前年同期比 +27.6%)

諸手数料及び集金費 — +336百万円  
(前年同期比 +40.0%)

前年同期は基幹システム開発遅延に伴う特別損失(256百万円)を計上

税効果会計の区分変更により、異常危険準備金に対する繰延税金資産を計上

保険金支払や事業費が増加したものの、それを上回る保険料収入の増加があったため、調整後経常利益は前年同期から83百万円の増加





J-GAAPベースの

業績



## 要約損益計算書 (J-GAAP:初年度収支残方式)

(単位：百万円)

	FY17 3Q	FY18 3Q	前年同期比
<b>経常収益</b>	8,995	10,920	+21.4%
保険引受収益	8,953	10,842	+21.1%
資産運用収益	38	40	+5.1%
その他経常収益	3	37	+1,010.4%
<b>経常費用</b>	8,679	10,467	+20.6%
保険引受費用	<b>5,312</b>	<b>6,536</b>	<b>+23.1%</b>
資産運用費用	—	17	—
営業費及び一般管理費	3,359	3,911	+16.4%
その他経常費用	7	2	▲65.4%
<b>経常利益</b>	<b>316</b>	<b>453</b>	<b>+43.2%</b>
<b>特別損失</b>	257	2	▲98.9%
<b>税引前四半期純利益</b>	<b>58</b>	<b>450</b>	<b>+667.2%</b>
<b>法人税等合計額</b>	<b>163</b>	<b>▲353</b>	—
<b>四半期純利益</b>	<b>▲104</b>	<b>803</b>	—

※太字は、Non-GAAPと数字が異なる部分

# 要約貸借対照表 (J-GAAP: 初年度収支残方式)

(単位: 百万円)

	FY17	FY18 3Q	前年度末比
<b>資産合計</b>	<b>9,250</b>	<b>12,688</b>	<b>+37.2%</b>
現金及び預貯金	4,666	5,166	+10.7%
有価証券	2,160	3,266	+51.2%
繰延税金資産	84	697	+729.4%
その他資産	2,339	3,557	+52.1%
<b>負債合計</b>	<b>6,347</b>	<b>7,465</b>	<b>+17.6%</b>
保険契約準備金	5,560	6,388	+14.9%
うち支払備金	794	859	+8.2%
うち責任準備金	4,766	5,528	+16.0%
その他負債	786	1,076	+36.9%
<b>純資産</b>	<b>2,902</b>	<b>5,223</b>	<b>+79.9%</b>
資本金	3,315	4,095	+23.5%

## 主な勘定項目の増減理由

資産運用の拡大に伴う増加

税効果会計の区分変更に伴い、異常危険準備金に係る繰延税金資産を計上

### 主な増加要因

ソフトウェア仮勘定 +573百万円、  
未収保険料 +152百万円、未収金 +132百万円

保有契約の拡大に伴う増加

普通責任準備金 — +414百万円  
異常危険準備金 — +347百万円

IPOに伴う増資に伴い、1,449百万円を調達



# APPENDIX



## 利益の推移

(単位：百万円)

		FY15	FY16	FY17
Non-GAAP	A) 調整後経常利益(未経過)(=B+C)	▲76	668	835
	B) 経常利益(未経過)	▲336*	345	444
	C) 異常危険準備金影響額	260	322	391

\* 未経過保険料の算定方法を純保険料を基礎とした 1/24 法(月央基準)から、営業保険料を基礎とした 1/12 法(月末基準)に変更

- 当社は、経営者が意思決定する際に使用する社内指標(Non-GAAP: 未経過保険料方式)と日本基準(J-GAAP: 初年度収支残方式)に基づく指標の双方で経営成績を開示\*\*
- 経営管理用の利益指標として、調整後経常利益(=未経過保険料方式の経常利益±異常危険準備金\*\*\*影響額)を設定
- 異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、事業年度ごとに収入保険料に3.2%を乗じた金額を責任準備金として負債計上する必要がある(保険業法施行規則第70条1項2号)\*\*\*
- 今後も業績予想は「Non-GAAP: 未経過保険料方式」のみで開示

\*\* 上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社は当社以外は存在しない

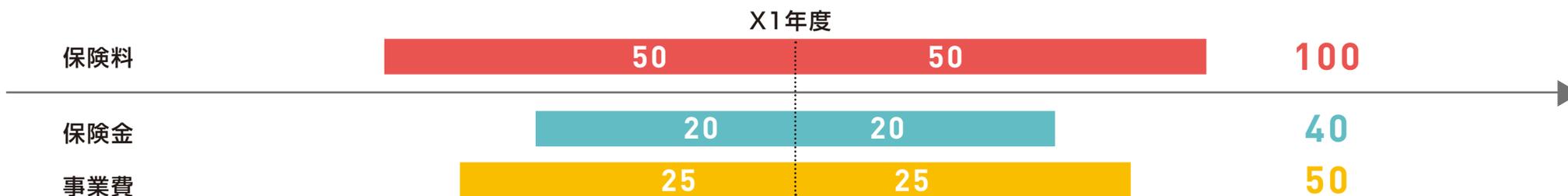
\*\*\* 当社の損害率が大臣省告示第232号第2条の別表で記載されている基準損害率50%を下回るため

# 【参考】利益と保険会計の特徴について

- ・ 損害保険会社は、普通責任準備金として未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を負債計上する必要がある（保険業法施行規則第70条1項1号）
- ・ 当社は、初年度収支残高が未経過保険料残高を上回っているため、会計上初年度収支残方式を使用も、経営管理上は、発生主義に即した未経過保険料方式を使用

## 初年度収支残方式と未経過保険料方式

(前提) ● 期中に一時払で100の入金、うちX1年度末での未経過保険料50  
● 保険金、事業費はそれぞれ下図の通り



### 初年度収支残方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	55	▲55
利益	0	10

初年度の利益は0

### 未経過保険料方式

	X1年度	X2年度
保険料	100	0
保険金	20	20
事業費	25	25
差引	55	▲45
準備金	50	▲50
利益	5	5

発生主義による利益

## ■将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません。

本資料及び当社IRに関するお問合せ先

アイペット損害保険 財務経理部

TEL: 03-5574-8615 E-mail: IR@ipet-ins.com